

「ウィーンに暮らす」 ～日本人会・NS会（なんでもする会）の労作～

元日本人会会長（ジェットロウィーンセンター所長） 清滝 昌三郎

ジェットロ・ウィーン・トレードセンター所長として赴任したのが1980年6月ということはもう23年も前のことになる。ドイツ語圏での勤務は初めてのことであり当初は緊張の毎日であったことも今では懐かしい思い出である。

外国での生活を始めようとするとき、先ず困惑する壁は言葉の問題を別としても、気候風土や生活習慣、ひいては文化の相違など戸惑うことも多く、とにかく一日も早くこれらの問題を克服して快適な生活をおくりたいと誰しも考えるところである。

着任後暫くして知り合った米国大使館の商務参事官から紹介されて「American Society」を訪問したところ「How to live in Vienna」という小冊子をプレゼントされた。

米国人はマニュアル作りやルール作りには極めて熟達していることは認識していたが一読して、あ！これだ！これこそ初めてウィーンに勤務し住もうとする人達にとっての素晴らしいアンチョコではないか！ 当然日本人向けのものが有る筈と思い日本大使館その他に聞いてみたが残念ながら無し。それではいっそのことこれを作ってみたらどうかと思いたった次第である。

なにか良い手だてが無いものかと考えあぐねていたところ思いついたのが日本人会である。しかし事務局も手不足、また実務を分担する役員メンバーも社業で東欧各国へ毎週のごとく出張して、とうてい戦力には成り得ないのは明白であった。

はてどうするかと思案していたとき、副会長の JAL の支店長から「日本人会に有志の会として N. S. 会（なんでもする会）というサークルがあり、これはウィーンに住む日本人婦人約100人が名を連ねて、見所巡り、美食会、ハイキング、ブリッジ、コーラス、料理等々の活動をしている。それに相談してはどうだろうか」という耳よりの話。

幹事役は商社マンのご夫人達、もともと才気闊達、積極的な皆さん、たちまち賛同を得て10数名の陣容で執筆・編集等引き受けて頂くことになった。執筆にあたっては慎重を期して必要な場合には現地調査まで自費で行うという念の入れようである。

問題は印刷。ワープロ、パソコンのまだ無い時代に日本語の印刷屋は現地で見つからない。そこでジェットロ本部の出版課長が昔ロサンジェルスに勤務した頃からの友人であることを思い出した。太っ腹の彼はジェットロの出版物として出版して一般書店を通じて販売することと、ウィーンでの必要部数は原価で良いという好条件で引き受けてくれたのである。上手くゆく時はすべて好調。これがきっかけで他の在外ジェットロ事務所も各国の特色を加えての出版が相次いだとのことである。

改めて「ウィーンに暮らす」を引っ張り出して眺めると当時のウィーンでの生活がまざまざと思い出されて懐かしい限りである。

<清滝 昌三郎>

在任：1980/6-1983/7

現職：（財）国際鉱物資源開発協力協会・顧問、日墺協会 副会長

